



2010～2011

沼田ロータリークラブ会報

地域を育み、大陸をつなぐ
BUILDING COMMUNITY BRIDGING CONTINENTS

2010～2011年度 国際ロータリー会長 レイ・クリンギンスミス

例会日…毎週火曜日 12:30 会長 松野正一 幹事 津久井功 会報編集 綿貫利彦
例会場及事務所 沼田市東原新町1540 利根郡信用金庫本店内 TEL 0278-24-1177

第2630回 例会報告

2011年1月18日

記録 綿貫利彦

例会予告

1/25	新会員卓話 宮田徳彦会員
2/1	大塚文雄先生民謡講習会

<http://www.rid2840.jp/numata/>

2011年1月25日発行 №27

ロータリークラブを活性化するために

ロータリー源流の会 会長 田中 毅 先生

於 辰 巳 館



■司 会 桑原伸一郎 S A A 出席委員

■ソング 奉仕の理想 宮澤孝幸君

■来賓及び来訪ロータリアン

ロータリー源流の会 (尼崎西) 田中 毅様
新潟 R C 小山 楯男君
本庄 R C 浅田 進君
伊勢崎中央 R C 清水アキオ君

会長の時間

松野正一 会長

12月中は雪が少なかったのですが、1月に入り雪が多く寒い日が続いていますのでお体にお気を付け下さい。

本日は、田中先生に「クラブを活性化するために」という題でお話しいたします。その一つとして R L I というのがあり、当地区も来期より採用する予定で、2770地区の R L I パート II に昨年出席してきました。効果的な会合を作るためのリーダーシップとはを

学びました。源流セミナーにも参加させていただき、例会運営のアドバイスをいただいたりしております。本日は遠路お越しいたいただき、勉強会を開催でき感謝しております。

卓話者紹介

桑原 裕君

先生は、尼崎西 R C で、2680地区96-97 パストガバナー。元ロータリージャパン・ウェブ委員長。元大阪国際大会インターネット委員長。ロータリー囲碁同好会名誉会長。ロータリー歴史と伝統の会理事。01・04年規定審議会代表議員座長。元 P R V F、テクノロジー失明回避、友情促進と親睦、識字率向上、ロータリー家族の各ゾーン・コーディネーター。07年 R I 超我の奉仕賞受賞。

沼田では、沼田・沼田中央 R C 合同例会を川場で一昨年9月に行った時に来ていただきました。また、源流セミナーでお世話になっ

ていて、本日おみえの小山さんも浅田さんもその仲間です。

■記念講話

1月サンディエゴで国際協議会が開催されており、昨日次年度R Iテーマが発表されました。「こころの中を見つめよう、博愛を広げるために」です。インド人らしいテーマになりました。

世界のクラブはサバイバル状況で、日本の各クラブも衰退しています。2000年から今年度まで50も減ってしまい、会員の退会防止をするためには、クラブの活性化が大切な事です。

会員は経営者です。現在のような経済が危機的状況の中で健全な経営をして事業を継続させるのが会員の勤めでもあります。ですので、ロータリーは経営学をぬきには語れません。ロータリーの出発は、原点はなんであったかという、親睦と会員企業の発展を考えることです。すべての会員と意思を共有し、信頼を築くため親睦を深めることです。しかし、現在は単なるボランティア団体になっていて、これが衰退させている原因の一つでもあります。

この状況をふまえ、ロータリーの歴史を思い起こしてみましょう。

20世紀初めの弱肉強食のシカゴは、無秩序でなにをしても儲ければ良い時代で、経営者達は、孤独と不信感に陥り、いつ敗者になるか分からず、信頼や相談できる人が求められていました。その様な仲間を求める事からロータリーはスタートし、親睦を深めるには同業者がいると話せない事もあり、異業種の集まりとなっていました。1906年シカゴクラブの定款は、会員事業所の利益向上というのがあり、奉仕の概念は無かった。会員同士の相互扶助を目的にしたグループで互いの手の届かない所に手を貸すというものでした。例会でも、会員間の商取引の結果を報告し、会員同士の取引状況を知らせており、その内容は、外に漏らさない約束になっていました。全米ロータリーの1911年会員名簿は、24クラブあり、各クラブ紹介だけでなく、会員事業所紹介もあり、会員事業所は、各自大きく発展し成長し続けてきました。零細企業が閉鎖的なロータリーの中で発展していく事に内外から疑問がありました。そんな時1908年

シェルドンがシカゴクラブに入会し、職業奉仕の理念をロータリーにもたらししました。今までは、自分の事業所発展のため親睦を深めるだけでよかったのですが、それだけでは世間は許さなくなってきました。物質的扶助だけでなく、精神的扶助が必要とされ、シェルドンの理念を活動の主とした、ロータリーの大変化があり、今まで発展してこられたのです。

シェルドンは、ミシガン大学で経営学を学び、卒業後、訪問販売セールスで大成功しました。1899年出版社も設立し、更に販売学を教えるビジネススクールも開校しました。この学校は、サービス学を中心とした販売学で「最もよく奉仕するもの、最も多く報われる」理念を学問として教えていました。

私はガバナーの時にシェルドンを研究しました。他の奉仕団体との違いは、職業奉仕の理念であり、その人を知れば理解できると思い、著書を探しましたが日本では、一冊しか出てきませんでした。93年に1921年議事録のロータリー哲学の文献が紹介されたものでした。それ以前にシェルドンを語られた方がいましたが、文献に基づくものでないのでまちがいが多く、自分で文献をみつけて訳しました。アメリカに娘がいるので古本屋まで調べてみつけましたが、訳してショックを受けました。源流の会のホームページにありますのでご覧下さい。

1902年「商売で成功する方法」にこの理念が書いてありました。ロータリーは1905年からですので、それ以前に学校のテーマで使っていたのです。この時代は、資本主義社会の醜い部分が一番でていた時で、失業・貧困と荒れはて恐慌へと向かっていきました。資本主義の矛盾を克服するため、修正資本主義が起こってきます。ルーズベルトによるニューディール政策はこの考えによるものです。これは1935年の事です。シェルドンは1902年から教えていて、ロータリアンは、この理念で経営していたため、この恐慌も多くの会社は乗りきりました。資本家として、労働環境の整備、利益の適正分配を行う。共通項目はサービスであり、品質を保ち適正価格で商品を提供し、接客にも注意し情報も提供して、アフターフォローを行う。それによりリピーターとなり、サービスを向上させて

いくという、今でも変わらぬ事です。人間関係学からみた利益の適正配分を行う事で、仕事ができロータリアンとしていられます。各自の努力だけでなく、従業員・家族・取引先関係者・お客様のお陰で成り立っているのです。得た利益を適切に分配する事もサービスです。

世界恐慌・世界大戦と激動の時代も、修正資本主義を実践していたロータリアンは、対応でき、苦難を乗り越えました。その後の経済成長により、企業は巨大化し、個人の力を越えたものとなり、資本家オーナーでなく、経営する人が現れ、サラリーマン社長が現れてきました。資本家・経営者・労働者の3つで会社が運営されるようになりました。巨大化により、支店や営業所など、オーナー経営者以外の支店長・マネージャーが現れ、入会してくるようになり、裾野は広がりましたが、本人の意思でなく会社の意志が必要となり、職業奉仕の理念を実行するのにすぐに行動として表せなくなっています。自社の問題点や内部の事を話しづらくなっている事もあります。ですから更に親睦が必要になってきています。

1970年代後半よりロータリーの危機がはじまっています。原因は4つあります。①経済が変化して新資本主義になり利益追求が強くなり投資ファンドなど職業理念を変えた。②職業奉仕の理念を間違え、単なるボランティア団体に向かっている。③R Iが巨大化して中央集権が強まり、各クラブ本来の職業奉仕ではなく、N P O的活動になっている。④C L Pなど、効率を求め例会軽視、親睦軽視になっている。これらの問題を解決し修正していかないとロータリーの発展はないし、生き延びられないと思います。

この70年代中頃より、グローバル化が始まり、資本・経営・労働の体制に、投資ファンド等の疑似資本家が入り、4者になった。新資本主義が現れました。新自由主義と混同されていますが、これは、アダムスミスの国富論による、民間の自由な経済活動であり、新資本主義は、疑似資本家が資金力で力を持つことであります。自分には資金はないが、持っている人から集め先物投資等を行い、何百倍にして人的バブルを作り配当します。穀物・油などなんでも金にします。そ

れに、保険・金融・証券などの金融資本も入って来ているのが問題です。更に、利益目的のM & Aも同様です。

事業の目的は、職業を通じて社会に貢献する事で、金儲けだけを追求する虚業家はロータリーに入れるべきではありません。利益だけを求めるのは、シェルドンの理念に反しています。残念なのは、R Iの内でも職業奉仕の理念が薄れてしまっている事です。

1987年職業奉仕についての声明が発表されクラブが実践する事、会員が実践する事がありました。クラブ自体は、職業奉仕ができないのに、職場訪問や従業員表彰などの事業がありましたが、職場訪問は親睦で、表彰は社会奉仕であります。職業奉仕は終了してしまいボランティア活動だけを考えているようです。これでは、会員の入会メリットが薄れるだけで、どう修正するのでしょうか。R Iはグローバルスタンダードで、資金・資産を管理する事でよいと思います。

クラブを活性化させるにはどうしたら良いか。日本では97年より会員数、クラブ数両方減少しています。経済情勢の変化だけでしょうか。親睦と職業奉仕の理念により、各会員企業が経営等について開衿して相談できる環境であるか、話した事がマイナスにならないような環境であるか、真の親睦ができているか問いたい。会員の資質向上を考えるべきです。クラブ内にライバル関係や利害関係になっている人がいると環境は整いません。単に増やすのではなく、各業界を代表する方の集まりで最高の環境にする。初期は会員だけで限定していたので非を受けたのですから、内から外へも広げれば良いのです。会員以外でもすばらしい方、事業所を紹介して、W C Sのような地場産業を紹介しあうなど考えれば広がると思います。

今の状況は、ボランティアを優先し例会を軽視しているため、魅力が減じられてしまっています。ボランティアをすればメイクになっても親睦にはなりません。例会は、会員が会話をし情報交換をする場で、親睦を深める所です。米山梅吉氏は、人生の道場であると言っています。世界一高い会費と財団や米山に協力を求められるだけで、会員がロータリアンとしての誇りを持ってもらいたい。世界的にも会員が減少しているが、ドイツは増

加しています。それは、入会するのが難しいからです。だから辞めないし、資質も高い。減少している時だからこそ、良いロータリアンが育つと思います。

ホテルの例会、運営も事務局まかせ。これらも見直せば良い。海外では100人以下の人数の場合は、すべて自分達で運営事務を行っています。IT等も活用し経費を削減し会費も見直せばよいのです。各クラブの状況にあった内容に細則で決めれば良いのです。よくあるのは、推奨細則であり、同じ必要はないのです。CLPは小型クラブが運営しやすいようにしてあるだけです。各クラブには自治権があります。

未来はどうなるのでしょうか。2050年頃人口は、95億、内先進国12億となるそうです。先進国は今までも12億です。少子高

齢化は進み移民を入れて同じでしょう。途上国83億で水・食糧の慢性不足、都市部への人口集中による超大都市のスラム化、貧困格差、資源の奪い合い、新資本主義の利益追求と弱肉強食の世界が予想されます。しかし、去年のチリ鉱山事件で学びました。いつ救出されるかわからない穴の中で、生きていく力が人間にはまだありました。分かち合いの精神により超民主主義が現れる事を期待します。シェルドンの理念を再度実践し、人々の善意で市場経済を越えて、国境のない世界へと発展してほしいと思います。

科学技術の発展により、バイオ等多種多様な発見により明るい未来を築き、高度な科学には、高い倫理観が必要となります。その時は人材を育てるため財団が役に立ちます。

次の世代につなぐのが我々の責務です。

